



社会福祉法人  
高岡市身体障害者福祉会

# セルプ志貴野

～ S H I K I N O ～



第20号

社会就労センター志貴野苑  
(障害者支援施設 志貴野苑)  
(志貴野苑 就労継続支援事業所)

高岡市葦附1239-27 TEL(0766)36-1200(代) FAX(0766)36-1203  
URL <http://www.shikinoen.jp/> E-mail: shikino1@pl.tcnnet.ne.jp

平成31年2月発行

## 公益財団法人 車両競技公益資金記念財団 より 助成金をいただき トイレと小浴室の改修を行いました



深く、狭かった小浴槽をゆったりと、安心して入っていただけるよう改修しました。



施設内に車椅子用トイレが男女各1箇所しかなく、利用者さんに不便をかけることもありましたが、車椅子の方でも利用できる広さのトイレに改修しました。



便座の補高機能を備えた便座に改修し、下肢筋力が弱くなった利用者さんの立ち上がりをサポートします。



## 平成29年度の相談支援内容

		(件)
福祉サービス利用		4,251
障害や病状の理解		7
健康・医療	医療機関への同行・紹介	1
	服薬管理・健康管理	108
不安の解消・情緒安定(傾聴)		3
保育・教育	幼稚園・保育園の紹介	0
	教育・進路に関わる支援	0
家族関係・人間関係		18
年金・手当・生活保護に関するもの		14
生活技術	金銭管理	2
	家事	2
	育児	0
就労		41
社会参加・余暇活動	サークル活動の紹介・同行	9
	外出・移動に関する支援	2
権利擁護	虐待	0
	成年後見人利用について	0
その他		181
合計		4,639

合計で4,639件相談支援として活動しました。

- ・短期入所、ヘルパーを使いたいな・・・
- ・住宅改修できるかなあ
- ・車椅子を修理したいなあ・・・
- ・退院したら自分の家で生活できるかな
- ・介助してもらって、入浴したいな・・・
- ・自分に合った自助具でご飯を食べたいな・・・

上記などの相談を受け、各関係機関と連携を取って対応しています。また、サービス等利用計画も作成しています。



**場所** 高岡市博労本町4-1 (高岡市ふれあい福祉センター内)  
 TEL (0766)28-8670  
 FAX (0766)28-8673  
 E-mail tssc@poem.ne.jp

**受付時間** 月、水、木、金 …… 8:30~19:00  
 火 …………… 8:30~17:15

## ご支援・ご寄付 ありがとうございます

(平成30年4月～平成31年2月末日まで)

- 公益財団法人 車両競技公益資金記念財団
- NHK歳末たすけあい義援金
- 公益財団法人 富山県善意銀行
- 高岡まこと銀行 ●JA高岡女性部
- 酒井信之 様 ●山本幼子 様



長澤 勝 様より今回も  
おいしいお米をいただきました

平成最後となるセルブ志貴野第二十号をお届けいたします。 「平成」という慣れ親しんだ元号も、新元号に変わるまで、残すところ三ヶ月をきりました。平成生まれの私にとって、初めて時代を跨ぐ体験となることから待ち遠しくもあり、そして少し切ないような気持ちにもなります。今は何かと「平成最後の」というキャッチフレーズを耳にしますが、この言葉を聞くと、いつも通りの日常が何か特別な時間を過ごしているように感じ、何かしておかなくては!と、つい煽られてしまいます。三十年間続いた平成を振り返ると、消費税導入に始まり、介護保険制度の施行やマイナンバー制度等で社会制度が大きく変わりました。県内では、北陸新幹線が開業し、大きな話題となったのは記憶に新しいところです。当苑では、平成二十三年度に障害者自立支援法により、入所授産施設から障害者支援施設および就労継続支援B型事業所へと移行し、平成と共に歴史を重ねてきました。平成から新しい時代へ：この節目を大切にし、職員一同、今後もより良い施設作りに励んで参りたいと思います。

## あとがき

## 研修講演会 「移動の介護技術」



講師 富山医療福祉専門学校  
 非常勤講師 萩島 久裕 氏  
 平成30年11月9日(金)  
 18:00～19:30

於：志貴野ホーム障害福祉センター



「移動の介護技術」において、対象者本人の移動能力がどれだけあるかを理解し、援助者だけの力に頼らず対象者自身の力を引き出すこと(割り勘の法則)が必要であると話されました。また、援助する際には対象者の体を小さくまとめ、援助者は重心の位置合わせを意識し、大きな筋肉を使うこと等が大切であると実技を通して私たちにわかりやすくご説明くださいました。

そして最後に腰痛を予防するため、援助者自身が負担を軽減できるように考えながら動くことや体力強化も必要であるとまとめられました。

先生が今まで取り組んでこられた実例を交えたお話はユーモアあふれる内容となっており、時には笑いもある和やかな雰囲気での研修となりました。今回の研修で学んだことを普段の介助に生かしていこうと思います。